



## Our Views

■ はじめに	1
■ CEOメッセージ	2
■ CSR対談	5
■ 日産のCSR	10
● 日産のCSRの発展プロセス	11
● 日産CSR重点9分野	17
● 日産CSRスコアカード	20
● ステークホルダー エンゲージメント2006	24
■ 事業活動報告・コーポレートガバナンス	25
● 「日産バリューアップ」進捗状況・ 2006年度決算概況	26
● コーポレートガバナンス	29
■ ステークホルダーへの価値の向上	36
● お客さまのために	37
● 株主・投資家の皆さまとともに	44
● 社員とともに	46
● ビジネスパートナーとともに	54
● 社会とともに	60
■ 地球環境の保全	71
■ 安全への配慮	100
社員一人ひとりが考えるサステナビリティ	110
● パフォーマンスデータ	116
● 事業等のリスク	118
● 第三者意見書	119



■ はじめに	1
■ CEOメッセージ	2
■ CSR対談	5
■ 日産のCSR	10
●日産のCSRの発展プロセス	11
●日産CSR重点9分野	17
●日産CSRスコアカード	20
●ステークホルダー エンゲージメント2006	24
■ 事業活動報告・コーポレートガバナンス	25
●「日産バリューアップ」進捗状況・ 2006年度決算概況	26
●コーポレートガバナンス	29
■ ステークホルダーへの価値の向上	36
●お客さまのために	37
●株主・投資家の皆さまとともに	44
●社員とともに	46
●ビジネスパートナーとともに	54
●社会とともに	60
■ 地球環境の保全	71
■ 安全への配慮	100
社員一人ひとりが考えるサステナビリティ	110
●パフォーマンスデータ	116
●事業等のリスク	118
●第三者意見書	119

ここでは経営陣や社員から寄せられた、自身の実体験や日ごろの業務を通じて考えている「サステナビリティ」への思いをご紹介します。



日産自動車株式会社  
副会長  
高橋 忠生

長く生産部門に従事してきた関係で、海外を含むいろいろな地域に勤務してきました。どこでも、ステークホルダーの重要性を毎日のように意識してきました。

工場を支えるさまざまなサプライヤーさん、自分の生活圏でもある地域社会の人びと、まわりで日産車を愛用してくださるお客さま、日産の将来を信頼して株主になってくださる地域の人びと、そして工場働く社員と、それこそ毎日肌で触れあいます。どんな場所でも、これらすべてのステークホルダーの信頼や魂のこもったサポートがなければ、私たちの事業は成り立たないことを事実と五感を通じて植えつけられました。

個人の生活を考えても、妻・親・子・親友とすべてが大切であり、すべてに誠意を持って接する努力をしているはず。企業も人と同様、社会の一員として存在する限り、すべてのステークホルダーにつねに気を配り、誠意を実際の行動で示していくことが重要であるといつも考えています。



日産自動車株式会社  
常務執行役員  
川口 均

企業のサステナビリティは、法令順守、環境対応、地域社会への貢献といった側面もありますが、ここでは、もっと根源的な社員意識の問題について考えてみました。私は、日産を支える精神的支柱として、“和魂洋才”という考え方を取っていきたくと思います。今や、日産のグローバルな社員数は18万人を超える時代となりました。そのうちの約4割が日本人であり、残り約6割が日本人以外です。さらに、事業規模の観点では、北米、アジア、欧州、BRICsの重さが増えています。逆にその分、日本事業基盤が相対的に低下してきているといえます。しかし、無国籍な企業になっていくだけでは、日産の持続的成長は困難でしょう。やはり日産は、日本DNAをベースにして日本のモノづくりを基盤にした世界展開を今後とも図っていき、一方で、ほかの日本企業とは違い、和洋のベストミックスによるダイバーシティに富んだ企業でありたいと願います。これが“和魂洋才”であり、真の日本発世界企業であることが日産のサステナビリティにとって重要である、ということをお社員に認識してほしいと思います。

## 社員一人ひとりが考える サステナビリティ

112 Nissan Sustainability Report 2007

■ はじめに	1
■ CEOメッセージ	2
■ CSR対談	5
■ 日産のCSR	10
● 日産のCSRの発展プロセス	11
● 日産CSR重点9分野	17
● 日産CSRスコアカード	20
● ステークホルダー エンゲージメント2006	24
■ 事業活動報告・コーポレートガバナンス	25
● 「日産バリューアップ」進捗状況・	
2006年度決算概況	26
● コーポレートガバナンス	29
■ ステークホルダーへの価値の向上	36
● お客様のために	37
● 株主・投資家の皆さまとともに	44
● 社員とともに	46
● ビジネスパートナーとともに	54
● 社会とともに	60
■ 地球環境の保全	71
■ 安全への配慮	100
社員一人ひとりが考えるサステナビリティ	110
● パフォーマンスデータ	116
● 事業等のリスク	118
● 第三者意見書	119



日産デザインヨーロッパ(英国)  
デザインディレクター  
ステファン シュワルツ

刻々と変化する21世紀の社会、文化、経済、環境といった課題に、自動車産業はさまざまな見方、感性、地理的な視点で取り組む必要があります。環境への配慮や持続発展性の考え方は、制約を意味するものではありません。むしろ部門間の協力を促して、従来の企画、設計、開発の方法に新たな風を吹き込むものになるはず。今後の自動車メーカーの成否は、そうした創造力にかかっているといえます。お客様の期待やニーズに応えるため、持続可能なパワー、革新的な設計、環境にやさしい材料や新技術を創出する能力やスキルが求められているのです。



日産(中国)投資有限公司  
企画管理部渉外 副経理  
季 菁

中国では、ハード面でクルマの安全性が向上しているにもかかわらず、人や社会が意識面で対応しきれずにいます。シートベルトやチャイルドシートの着用など、基本的なことから認識していただく必要があります。「ニッサン・セーフティ・ドライビング・フォーラム」は、安全の基本を周知するとともに、日産の先端技術をご覧いただき、たいへん良い機会となっています。フォーラムを通じて、中国も近い将来、安全な交通社会が実現できるだろうと感じました。その日が一日も早く来るよう、対政府渉外担当として交通安全政策の推進を政府にも働きかけていきたいと思っています。



日産自動車株式会社(日本)  
グローバルインターナルオーディット  
グローバルリスクマネジメント 課長  
菅原 正

リスクマネジメントは、よくクルマのアクセルに対するブレーキにたとえられますが、挑戦することを抑え込むようなものではありません。むしろライバルを追いかけて、追い越し車線を高速度で走り続けることを保障するためのアンチロックブレーキシステムやエアバッグといった安全装置的なものです。社内的には、不測の事態を回避して中期計画や業務目標の達成をより確かなものにし、社外に対しては、適切なリスク情報の開示で信頼向上につなげるのがリスクマネジメントの目的です。これによって、日産の持続性ある安定的な成長をサポートできていると考えています。



ジェンサーグループ(ロシア)  
インフィニティセンター  
ディレクター  
ミハイル ティホミロフ

2006年8月、ロシアでインフィニティブランドの販売が始まりました。インフィニティの欧州展開がロシアから始まったこと、そしてジェンサーグループがその第一陣として販売に参加したことは私たちの誇りです。今後もこの高級車に見合う、質の高いサービスをお客さまに提供していきます。日産にとって、ロシア市場への参入はひとつの試金石になるはず。細部にまでこだわるロシアの消費者を、見かけばかりの広告で満足させることはできません。ロシアでの成功は、インフィニティが真の国際的ブランドとして発展した証となるでしょう。

## 社員一人ひとりが考える サステナビリティ

113 Nissan Sustainability Report 2007

■ はじめに	1
■ CEOメッセージ	2
■ CSR対談	5
■ 日産のCSR	10
● 日産のCSRの発展プロセス	11
● 日産CSR重点9分野	17
● 日産CSRスコアカード	20
● ステークホルダー エンゲージメント2006	24
■ 事業活動報告・コーポレートガバナンス	25
● 「日産バリューアップ」進捗状況・ 2006年度決算概況	26
● コーポレートガバナンス	29
■ ステークホルダーへの価値の向上	36
● お客さまのために	37
● 株主・投資家の皆さまとともに	44
● 社員とともに	46
● ビジネスパートナーとともに	54
● 社会とともに	60
■ 地球環境の保全	71
■ 安全への配慮	100
社員一人ひとりが考えるサステナビリティ	110
● パフォーマンスデータ	116
● 事業等のリスク	118
● 第三者意見書	119



メキシコ日産自動車会社  
環境・安全担当マネジャー  
マルコ アントニオ リベラ

「サステナビリティ」や「CSR」の考え方は、メキシコでは比較的新しいものです。しかしメキシコ日産ではそうした活動を長年実践しており、私自身も汚染防止や職場の安全確保という問題に直接かかわってきました。燃費改善への取り組みはコストのみならず温室効果ガスの削減にも効果を上げていますし、メキシコ日産の1台あたりの水使用率は国内最少レベルを達成しています。これは半乾燥地域に最大の生産拠点を置く私たちにとって非常に重要な問題です。さらに、職場の安全や社員一人ひとりの行動が改善されたことで労働災害が大幅に減り、サステナビリティやCSRにおける目標達成の一助となっています。



ブラジル日産自動車会社  
広報部  
コミュニケーションマネジャー  
フェルナンド メネゼス

製品やブランドに対する消費者意識がますます高まる中、ステークホルダーとの間に倫理的で透明性のある関係を構築することは企業にとって不可欠といえます。ブラジルのような途上国のステークホルダーは、民間企業によるCSR活動、中でも均等機会の創出という役割にとっても敏感です。ブラジル日産ではグローバルなCSR戦略のもと、北米日産と連携して米州全体のCSR活動が最大限の相乗効果をもたらすよう活動しています。地域間で協力することで、一貫性のあるCSR活動やコミュニケーションを目指しています。



南アフリカ日産自動車会社  
広報部  
マリボンウィー コロ

人びとの生活を豊かにする最良の方法は、地域社会の基本的なニーズに応えることです。南アフリカ日産は、こうした取り組みをさらに進展させ、車両を利用した「モバイルアイクリニック（移動眼科診療車）」を寄贈しました。医療の行き届かない農村部に住む子どもたちに眼鏡を届ける活動を支援するためです。「モバイルアイクリニック」は今後、年間4,000人以上の学童の視力検査を実施して、必要に応じて眼鏡を入手できるようにします。南アフリカ日産のCSR活動の基本はサステナビリティ。地域の発展に役立つ、息の長い貢献ができるよう心がけています。



日産モーター・イベリカ会社(スペイン)  
アビラ工場 組立担当  
フアン カルロス マルティン エルナンデス

スペインのアビラ工場は、環境に配慮した生産体制を目指す日産の姿勢をよくあらわしています。268基のソーラーパネルの設置をはじめ、クリーンエネルギー対策に取り組む工場に働いていることは、私の大きな誇りです。このソーラーパネルは工場の温水暖房システムと車体塗装セクションに電力を供給し、工場全体の二酸化炭素排出量の大幅削減に役立っています。経済効率と将来の環境対策の目標が調和した、すばらしい産業プロジェクトに携われることをうれしく思います。

## 社員一人ひとりが考える サステナビリティ

114 Nissan Sustainability Report 2007

■ はじめに	1
■ CEOメッセージ	2
■ CSR対談	5
■ 日産のCSR	10
● 日産のCSRの発展プロセス	11
● 日産CSR重点9分野	17
● 日産CSRスコアカード	20
● ステークホルダー エンゲージメント2006	24
■ 事業活動報告・コーポレートガバナンス	25
● 「日産バリューアップ」進捗状況・ 2006年度決算概況	26
● コーポレートガバナンス	29
■ ステークホルダーへの価値の向上	36
● お客様のために	37
● 株主・投資家の皆さまとともに	44
● 社員とともに	46
● ビジネスパートナーとともに	54
● 社会とともに	60
■ 地球環境の保全	71
■ 安全への配慮	100
社員一人ひとりが考えるサステナビリティ	110
● パフォーマンスデータ	116
● 事業等のリスク	118
● 第三者意見書	119



日産自動車株式会社(日本)  
FCV開発部  
課長  
山梨 文徳

究極のエコカーともいえる燃料電池車(FCV)。広く普及するには至っていませんが、私たちはFCVによる社会貢献活動を展開し、子どもたちに地球の環境変化の深刻さと、それを解決するためには新技術が必要であることを教えています。この活動の中で聞かれる「すごい!」「大人になったら絶対買う」といった子どもたちの率直な言葉はとても胸に響きます。環境教育を通じて、技術への憧れを引き出し、一人でも多くの日産ファン、FCVファンを増やしたい。今後もこうした活動に継続的に取り組んでいき、若いスタッフをどんどん参加させたいと思います。



日産車体株式会社(日本)  
総務部 人事グループ  
池田 尚子

大企業の不祥事が相次ぐ中、コンプライアンス(法令順守)担当となって、行動規範を守ることの大切さをあらためて感じています。たったひとつのルール違反が会社を危うくし、お客さまにまで多大な迷惑をかけてしまう。こうした事態を招かないためには、私たち社員一人ひとりがルールを守ることの重要性をしっかりと認識し、行動していくことが不可欠です。お客さまに魅力ある質の高いクルマとサービスをお届けすることの前提として、企業としてどうあるべきか、何をなすべきか、すべての社員が自ら考え、行動できる風土づくりを進めていきたいと思っています。



インドネシア日産自動車会社  
販売・マーケティング  
ダイレクター  
テディ イラワン

インドネシア日産は、この国の社会貢献活動に積極的にかかわってきました。2004年12月にアチェ州を襲った津波被害では、被災者への義援金として1億ルピアを寄付し、同州における国連世界食糧計画の活動に対して、12台の車両を寄贈しました。2006年5月にジョグジャカルタで起きた大地震の際は、現地日産と社員個人の寄付のほか、日本の社員からの募金も集まり、被災したもっとも貧しい地区の学校建設に役立ててもらいました。私たちは、これまでの貢献そして将来の貢献を通じて、インドネシアの社会状況が改善され、持続的な発展が図れるよう願っています。



三河日産自動車株式会社(日本)  
日産ギャラリー刈谷  
課長  
蜂谷 小公

日ごろお客さまがライフスタイルに応じたクルマの使い方をされる中で、私はお客さまに対してどのような手伝いができるかをつねに考え、そのお客さまにとってベストなカーライフ・アドバイザーになれるよう努力しています。また、お客さまにとって、クルマのショールームは、私たちが考えているほど気軽に入れる場所ではないと思いますので、ご来店いただいた際は、駐車場までお出迎えし、店内に入りやすい雰囲気をつくったり、お越しいただいたすべてのお客さまに対して細かい気配りを大切にし、決して軽々しい対応をしないということも心がけています。最近は女性のお客さまが増えてきたので、女性営業だからこそ共感できることも多々あり、女性としてこの仕事を長く続けてきてよかったと思っています。

## 社員一人ひとりが考える サステナビリティ

115 Nissan Sustainability Report 2007

■ はじめに	1
■ CEOメッセージ	2
■ CSR対談	5
■ 日産のCSR	10
● 日産のCSRの発展プロセス	11
● 日産CSR重点9分野	17
● 日産CSRスコアカード	20
● ステークホルダー エンゲージメント2006	24
■ 事業活動報告・コーポレートガバナンス	25
● 「日産バリューアップ」進捗状況・ 2006年度決算概況	26
● コーポレートガバナンス	29
■ ステークホルダーへの価値の向上	36
● お客様のために	37
● 株主・投資家の皆さまとともに	44
● 社員とともに	46
● ビジネスパートナーとともに	54
● 社会とともに	60
■ 地球環境の保全	71
■ 安全への配慮	100
社員一人ひとりが考えるサステナビリティ	110
● パフォーマンスデータ	116
● 事業等のリスク	118
● 第三者意見書	119



北米日産会社(米国)  
デカード工場  
エリアマネジャー  
ダナ マイルス

テネシー州デカードのパワートレイン組立工場で、2006年9月からクランクシャフトの製造が始まりました。横浜工場以外でつくられるのは初めてのこと。今後は、北米で製造されるすべての日産車とインフィニティ車にこのクランクシャフトが搭載されます。米国内で部品を製造することで、輸送と在庫にかかるコストを削減でき、エンジン性能の要となる品質水準の管理も容易になるでしょう。性能の良い部品をコストをかけずにつくり、お客さまに高品質で価値あるクルマをお届けすることが、私たちの自信につながっています。



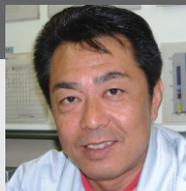
北米日産会社(米国)  
ブランドマネジメント  
ジニー ラム

ロサンゼルスからテネシー州ナッシュビルに移転することになった北米日産本社。多くの社員が、日産で働き続けたいという気持ちと、ロスでの暮らしとの間で、移転の直前まで揺れ動きました。そうした中、転職の道を選んだ社員に対して、会社が再就職支援のためのキャリアセンターを設置したことは素晴らしいことです。社員を想う日産の姿勢がよく伝わりました。ナッシュビルは思っていたよりもずっと良い街。従来との環境との違いはありますが、今回の本社移転が日産のさらなる繁栄につながるだろうと思っています。



日産エジプトモーター社  
品質保証部  
A-VES 工長  
ハリド ハッサン バクル エベード

日産エジプトモーター社では、お客さまにご満足いただけるよう、業務プロセスの改善やスキル向上に日々努めています。AVESという品質評価システムのもと、評価部署は生産と検査の両部門にフィードバックを行い、会社全体で品質管理に取り組んでいます。目標とする品質を達成するには現場のチームワークと部門間の連携が欠かせません。高品質のクルマをつくり、日産を一流の企業にすることが私たちの誇りです。古代エジプト文明を築いた祖先が人びとの力と信念を結集させたように、私たちも一丸となって日産グループに大きく貢献できるよう努力しています。



日産自動車株式会社(日本)  
栃木工場 第一製造部第一組立課  
シャシー担当 係長  
宮川 和明

お客さまにとって、製品は「不具合がなくて当たり前」。ですから、たとえ一件の不具合でも私たちにとっては「命取り」になりかねません。栃木工場では、モノづくり品質世界一を目指す工場として、またインフィニティ工場として、とことん品質にこだわっています。そして「勝ち抜く」ではなく、「勝ち進む」の精神でモノづくりに取り組んでいます。クルマづくりのプロとしてのプライドを高く持ち、お客さまからの期待の大きさをつねに考える、この気持ちを製造ラインの作業員一人ひとりが持ち、高品質なクルマをお届け続けたいと思っています。